研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-161	A-179	20-078	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Keg Registration Laws, Alcohol Consumption, and Alcohol-Related Traffic Fatalities Among Adolescents

樽登録法とアルコール摂取量および青少年のアルコール関連交通事故死について

執筆者

Baris K. YORUK, Linna Xu.

掲載誌

J Stud Alcohol Drugs. 2021 Jan;82(1):66-75.

キーワード	PMID
樽登録法、青年期、アルコール摂取量、交通死亡事故	33573724

要　旨

目的：青年期の飲酒行動は、成人期のアルコール使用障害の予測因子であり、身体的、心理的、社会的影響が報告されている。本研究では、米国において未成年者の飲酒対策として導入された樽登録（KR）法が、アルコール摂取量とアルコール関連交通死亡事故に及ぼす影響を調査した。

方法：米国疾病管理予防センター（CDC）が隔年実施している横断的全国調査 Youth Risk Behavior Surveillance System（n = 107,480）と Fatality Analysis Reporting System（n = 12,102）から得られた 1993 年から 2013 年のデータを用いた。差分の差分法を用い、KR 法がアルコール摂取（飲酒、一時的大量飲酒、大量飲酒）あるいはアルコール関連交通死亡事故に及ぼす効果を推定した。調整因子は、性別、人種、世帯収入、学年、年齢、失業率、ビール税、ID 法・日曜販売法・ゼロトレランス法の有無とした。

結果：KR 法導入は、飲酒および大量飲酒に有意な影響を与えなかったが、一時的大量飲酒の減少（－2.3% [p<0.01]）と関連した。性別での検討では、男性において、KR 法導入は、一時的大量飲酒の減少（－2.7% [p<0.01]から－2.9% [p<0.05]）と関連したが、女性では有意な関連を認めなかった。年齢別に見ると、男性の 16 歳（－5.0% [p<0.01]から－6.9% [p<0.01]）および 18 歳（－5.6% [p<0.01]から－6.0% [p<0.05]）において、一時的大量飲酒の KR 法による影響を認めた。女性においては 17 歳の飲酒の減少と関連していた（－4.0% [p<0.05]から－7.1% [p<0.05]）。KR 法導入によるこれらの影響は、比較的厳しい KR 法を持つ州で強かった。また、KR 法導入は、未成年者のアルコール関連交通事故死には有意な影響を与えなかった。

結論：KR 法が、未成年者の一時的な大量飲酒の減少に有効である可能性が示唆された。本研究で得られた情報は限定的であるため、さらなる詳細な検討が必要である。